

## 第3回府立図書館サービスの充実に向けた検討会議の議事要旨

### 1 開催日時

平成27年10月28日（水）午後2時から午後4時まで

### 2 場所

京都府立図書館（京都市左京区岡崎成勝寺町9）

### 3 出席者

原田隆史座長、明致親吾委員、大槻政美委員、小川雅史委員、桂まに子委員、清水 清委員、千賀彰子委員、千歳則雄委員、富永敦子委員、内藤千鶴委員

### 4 会議の内容

- (1) 前回の議事録について
- (2) 基本方針（仮）案・サービス計画案・評価の仕組みについて（協議）
- (3) 検討会議のまとめについて
- (4) 今後のスケジュールについて

### 5 協議事項

#### ○基本方針（仮）案について

- ・府内の公立図書館の現状を考えたとき、図書館をつなぎ、支援することを基本方針の最初に持ってきたのは大事なこと。
- ・府立と市町村立の図書館の差別化・特化は、基本方針のなかに盛り込まれており、特に1、2については色濃く出ている。2の文言について、若干修正が必要。京都市立図書館を利用すべき近隣の方々がふらっと来て、娯楽性の強い本を手にとるようなサービスが求められないように考えるべき。
- ・この点は2001年の再開館以来の課題。どちらかに結論づけるのは難しいが、岡崎の地域図書館ではないものを目指していただきたい。
- ・他方、立地などの前提条件のなかでは観光客等の開拓にも是非チャレンジしてほしい。
- ・間接サービスと直接サービスのバランスは、利用者が選択して府立図書館を性格付けていく結果として出てくるのではないか。
- ・1は従来と変わらない印象。せっかくハブという言葉が出ているのだから、明確に中心を示す言葉を入れた方がよい。また府民の読書活動の啓発などの文言はほしい。府民の文化向上は、市レベルではなく府こそ考えてほしい。
- ・具体的な取組としては、読書週間などで市町村とコラボする企画があるとありがたい。それが地域の活性化にもつながる。
  
- ・基本方針の3の「グループで議論しながら…場を設定し提供する」という部分は世の中の流れを取り込んでいて、すごく良くなった。発表の場の提供という視点も読み取れるので、単なるレンタルスペースとの違いも考えられている。
- ・3は従来の図書館の打ち出し方と違う新しいものとする。
- ・3で問われるのは図書館のスタンス。どこまで主体的に活動に踏み込むか、あくまで場の提供や支援までなのか。

○サービス計画案について

- ・府全域の地図を入れると、府内全域をサービス対象にしていることがわかりやすいのでは。全体として書きぶりの工夫を。
- ・今の案は骨になる部分なのか。もう少し説明が必要。
  - 書きぶりについては検討するが、このサービス計画は平成28年度から5年間で実施する事業を包括的に掲げている。具体的な内容については、各年度ごとに立てていく事業計画に書き込んでいく。
- ・前向きな、サービスが向上するという表現になるよう検討いただきたい。
- ・資料収集方針案などと文言を調整すること。さきほどの市町村との差別化の議論を反映するとどうなるか検討が必要。
  
- ・「連絡協力車ルートの見直し」や「貸出文庫制度の見直し」についてはどの方向か。貸出文庫については一定の役割は果たしたと考える。
  - 連絡協力車については市町村の利便性の向上を考えたい。貸出文庫については市町村の状況も変化してきているので市町村と一から考えたい。
- ・研修などは時機に応じた設定を。市町村は目先のことしか動けないので、定番のメニュー以外に、長いスパンで課題に応じた研修をお願いしたい。
  
- ・学校支援セット貸出は素晴らしい制度で情報もたくさん出ているが、知らない教員も多い。市町村立図書館で府立の支援セットを展示してもらえるとよい。本の実物が見える形でのアピールを。
- ・「子ども読書支援」は大項目の2よりも1の要素が大きいのではないか。
- ・「子ども」だけでなく「児童・生徒」という文言がどこかにほしい。
- ・府立高校生には一度は府立図書館へ来館させたい。高校生のうちに府立図書館を使えば、成人してからも使うだろう。
  
- ・大項目2のなかには沢山の中身がある。「文化資源」「歴史・立地」「調査研究」という3つの中項目に分けてもよいかも。
- ・1階のリノベーションなど、府立図書館が持っているものの活用は、大学生などに気軽に入ってもらおうという意味でも是非すすめてほしい。本格的な利用の前のワンクッションとして重要。
- ・行政支援は、図書館が本来持っているべき機能。市町村でも課題解決がキーワードになっている。府がどんな課題をかかえていて、各課がどう取り組んでいるかなどをコーナーで紹介できれば。重要なのでもっと記述をふくらませてほしい。
  
- ・「知的な交流の場」の創設にかかわって、図書館としてどこまで主体性を発揮するのか、どういうスタンスを取るのか、地域課題への図書館の踏み込み方がこの表現ではわからない。知的な交流の場の設置・運用といった場合の主体性、踏み込み具合、心構えやスタンスが見えない。その部分を理解した上で書き込まれるとすればよい。
- ・ラーニングコモンズは大学図書館が売りにしている機能であるが、情報空間として魅力のあるところでないといけない。現状の2階は魅力のある空間とは思えない。
- ・魅力的な場は、さまざまな人が関わることによってできる。図書館職員はサポートするという姿勢で。たとえばフライヤーをたくさん置くだけで、いろいろな活動がここ

に来ればわかる、ということになる。また、人が集まるかどうかは、職員の技量よりも人柄に左右される部分が多い。

- ・図書館として主体性をもってやるのは難しいのでは。地域には様々な主体がいる。それらが集う機会を創ること、活動の見える化などから取り組むべき。
- ・個人的に調査研究活動をされている方に発表する場を提供することは、府立図書館に限らずありえるかも。

- ・発信という部分の書き込みが弱い。府立図書館が行うからこそ波及効果があるという話がもう少しいるのでは。
- ・岡崎ならではの企画や「海の京都」などテーマ性のあるもの、学生に企画を任せてみるなど、様々な打ち出しをしてほしい。
- ・本日の会議の前にもう一度館内を見てきた。いろんな展示コーナーが館内にあるが、入館した時に伝わりにくいと感じた。工夫が必要。
- ・京都のよさを活かすということで、企業とのコラボはほしい。そうすると大学生の活動も地域から発信できるのではないか。

#### ○評価の仕組みについて

- ・外部の評価も受ける。指標も別に設定されるという方向性。詳しくは個別にヒアリングさせてほしい。

→今後の方針として資料収集方針についても議論いただきたい。サービス計画については、12月議会か2月議会に報告の予定。